

## 巻頭言

### 御挨拶にかえて

出口孝吉

今回の県の大異動で小生畜産課長お受けしました。何分浅学非才でございますがよろしくお願ひ申し上げます。

今回の異動で、農林部の機構改革が行なわれ、主要施策である構造改善を推進するために構造改善課が生まれ、また農業経済、普及教育、農産園芸の各課が誕生した。従来の農林行政が生産指導や増産対策に大きな比重がおかれていたのを是正し、今後の経済発展や貿易自由化に対処することになったわけである。畜産課はそのままの形で残ったが、畜産に関する試験研究や普及は普及教育課で管理することになり、新しい体制で出発することになった。

申すまでもなく畜産は農業所得増大のにない手として、農業構造改善の適作目に重点的に取りあげられているが、先般来畜産課において樹立中の畜産振興計画においては、食生活の向上と国際競争力を付与する観点から、畜産の振興を大々的に取りあげようとしている。その推進に当っては生産増強や飼料基盤、消流、衛生の各方面から考えなければならない。従来畜産においては、生産や繁殖関係については各種対策がなされており、技術的な指導も行なわれていたが、消費流通については最近漸くその施策が取り上げられて来たのにすぎず、本格的な対策は今後のことに属するし、飼料基盤の面においても同様のことがいい得る。また生産、衛生等のあらゆる部門において行政、試験研究あるいは普及等、整備されているとはいいがたい。畜産は成長産業といわ

れながらも、その基盤は極めて弱いので、これをいかにして地についた、がっちりしたものにするかは今後の課題である。団体の問題にしても然り、行政の施策を樹立するに必要な基礎資料の整備も必要である。新しい視野に立って畜産の基礎をかためるためには、これからやるべき事は極めて多いが、各方面のご協力を仰がなければならない。切にご支援を賜わり度くお願ひする次第であります。